

平成30年度天皇杯受賞者受賞理由概要
農産・蚕糸部門

高度な水稲直播技術と徹底したコスト低減による高収益家族経営の実践

○氏名又は名称 佐藤 忠美

○所在地 北海道雨竜郡妹背牛町

○出品財 経営（水稲・秋小麦）

○受賞理由

・地域の概要

妹背牛町は北海道の札幌市と旭川市の間に位置し、石狩川、雨竜川の豊富な水資源に恵まれた、平坦な水田畑地が広がる道内でも有数の水稲産地である。

・受賞者の取組の経過と経営の現況

水稲と秋播小麦を主体とした約40ha（平成29年）の規模で家族3名を基本とした経営である。栽培期間が限られる北海道の厳しい環境の中、水稲直播栽培と田畑輪換による小麦栽培を導入し、ほ場ごとに管理方法を変えながら、低コスト、高品質、省力栽培による高収益経営を実現している。

・受賞者の特色

（1）高い技術力に裏付けされた水稲直播技術の実践

水稲栽培において、直播栽培は移植栽培に比較して、大幅な作業の省力化が出来るが、収量の確保が難しい問題がある。佐藤氏は、栽培期間が限られ、気象条件のリスクが高くなる北海道の厳しい条件下で、直播栽培を導入し、高い収量につながる高度で独自の栽培技術を自ら試行錯誤のうえ習得し、ほ場ごとのきめ細やかな栽培管理を行うことで、北海道10a当たりの平均収量を約120kgも上回る収量を確保し、さらには北海道の生産費の平均と比較して約2割の生産費削減を実現しており、北海道でトップクラスの高収益経営を実践している。また、田畑輪換による小麦栽培では、自作のコンビネーション播種機により出芽率を上げ、水稲と同様にほ場ごとのきめ細やかな栽培管理を行い高収量を確保している。以上のシステムは、佐藤氏が過去の栽培データに基づき確立したものである。

（2）技術の普及、経営の知識伝達とその取り組み

佐藤氏は、「妹背牛町水稲直播研究会」を立ち上げ、長年培った水稲直播技術やその成果を惜しむことなく地域の農家に伝えるとともに、自らと地域の直播技術の向上を図り、省力、高品質、低コスト化による地域の経営改善に取り組んでいる。

（3）女性の活躍

経営では、(株)佐藤農場として、平成29年に法人化し、社員として妻の聖子氏、四女の亜紀氏を雇用している。聖子氏、亜紀氏ともに、農業機械のオペレーターとして水稲移植栽培や小麦の栽培など、全体の作業を実施し、経営に参画している。

・普及性と今後の発展方向

直播栽培技術をより高度化し、今後も消費者ニーズに対応する高品質な作物の生産性の向上や省力・高収量による経営の高収益化を目指す意向である。さらに地域の担い手への技術や経営管理の伝達を通じて自分だけではない、地域、北海道全体の農業が良くなるように取り組みを進めていくこととしている。